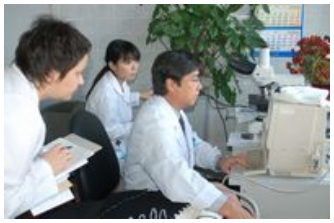
▼CMN の活動【A4・ラミネート・カラー】　…計 14 枚



【1】

ブレスト市での甲状腺ガン検診

年に 1、2 回、日本の医療専門家を派遣し、現地と合同での甲状腺ガン検診を実施。ベラルーシにおける甲状腺ガンの早期発見･治療システムの確立を目指す。

【2】

エコー診断

エコー（超音波診断装置）を使い、甲状腺の診察を行う。ここで異常が見つかった患者には、吸引穿刺による細胞診断が行われる。

【3】

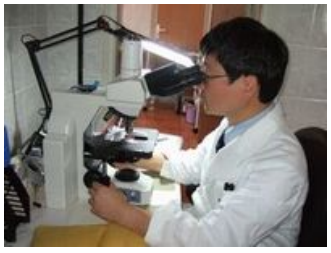
吸引穿刺を行うアルツール医師

エコー画面を見ながら、ガンの疑いがある細胞の採取を行う。採取した細胞を染色し、顕微鏡でガン細胞があるかどうかを診断する。

【4】

現地スタッフの人材育成

採取した細胞の検体を作るエレーナ医師。1997 年にスタートした甲状腺ガン検診プロジェクトも 10 年以上が経過し、現地スタッフの医療技術も向上している。



【5】

細胞診断

顕微鏡でガン細胞があるかどうかを調べる。現地で診断を出すことで、自分が病気ではないかと不安を抱える患者の精神的な負担を軽減することができる。

【6】

顕微鏡で細胞を調べるアリーナ医師

ベラルーシでは医師に比べ、細胞診断を行う病理スタッフの数が圧倒的に少ない。
甲状腺ガンの早期発見・治療を実現するために、今後、細胞診断のできる病理スタッフの人材育成が大きな課題となる。

【7】

乳ガン検診の実現にむけて…

08 年にベラルーシへ検診団・調査団を派遣した際に、現地医療関係者を対象に乳ガン検診についての講義を実施。日本における現状と検診の必要性について説明。

【8】

医学シンポジウムの開催

医療検診団・調査団の派遣事業の一環として、首都ミンスクにて医学シンポジウムを開催し、現地医師らの学びの場となっている。毎年ベラルーシ各地から関心を持った医師らが集まり、日本の医療専門家による報告に聞き入る。

【9】

医学シンポジウムのようす

会場では、配布資料を熱心に読み、日本の医療専門家による報告を聞きながら熱心にペンを走らせる姿が多く見られる。

【10】

チャリティヘアサロン・スネガビーク

一人の美容師の想いからスタートしたチャリティヘアサロン。プロの美容師に髪を切ってもらい、イベントの収益金がチェルノブイリ支援にあてられるため、オシャレに気軽に国際協力ができる。「スネガビーク」はロシア語で「雪だるま」、「雪の精」という意味。

【11】

協力者名簿を贈呈

イベント終了後、ベラルーシを訪問した調査団より、ブレスト州立内分泌診療所のアルツール所長へ、「ヘアサロン・スネガビーク」の協力者名簿を贈呈。

【12】
1986 年 4 月 26 日のチェルノブイリ原発事故から 20 年目を迎えた 2006 年 4 月、国連開発計画(UNDP)とベラルーシ国家チェルノブイリ委員会の共催により、国際会議「チェルノブイリ 20 年:汚染地域の復興と持続可能な発展のための戦略会議」がベラルーシで開催された。

【13】
同会議には、ベラルーシ、ロシア、ウクライナの政府代表、国際原子力機関(IAEA)や国際赤十字、国連などの国際機関の他、研究者、専門家、NGO など、世界 40 ヶ国から 1,600 人が参加した。

【14】

NPO 円卓会議にて活動報告

国際会議 2 日目、各国のNPO/NGO 団体が集まり、それぞれの活動報告を行う円卓会議に出席。
ブレスト市における甲状腺ガン検診プロジェクトについて発表した。